

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	さくら一む八軒		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 15日 ～ 令和7年 10月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23 (回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 15日 ～ 令和7年 9月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムが工夫されている。体幹やバランス、協調運動など体づくりを基本とし、ピジョントレーニングやきくきくドリル、記憶力を高めるための活動など認知面の発達を促すプログラムを行っている。	楽しく取り組むことができるよう、発達段階に合わせた課題の内容になるよう心がけている。他の児童の取り組む様子を見てそれが刺激になり、がんばろうという姿勢も見られている。	今までできなかったことができるようになった、という達成感と自信を持つことができるように、もう少しでできそうなところへの取り組みを強化していく。
2	保護者同士が交流できる場を設けた。今年度はペアレントプログラムを開催し、茶話会も複数回行っている。また、参観日のときにも保護者間の交流ができるように工夫を行った。	ペアレントプログラムは全6回行われ、それぞれの保護者が日頃悩んでいることや困っていることなどを共有し、心をひらいて活動に参加して下さった。茶話会では幼稚園入園や小学校入学にむけてのアドバイスが得られたり、情報の共有のしかたなどが話されて有意義な時間となった。	似た年齢のお子さんを持つ保護者同士は同じ時期に似た悩みを持ちやすいことから、悩みを共有したり少し先輩から話を聞く場があることが重要と感じた。今後も茶話会や参観日など、交流ができる場を設定していく。
3	運動面や感覚面の発達にあわせ、ひとりひとりに合った個別的な活動の時間を設けている。全身を大きく動かす活動や、手先の細かい動きをする活動などを取り入れている。体を動かすことに対して自信を持ち、活き活きと活動をする様子が見られるようになった。	そのときにとても気に入っている運動は、その時点で必要な刺激であったり運動であるという考えのもと、活動に積極的に取り入れるようにしている。遊んでいる感覚で繰り返すことにより、確実な上達が見られている。	遊びの中で楽しんで必要な動きや感覚を身につけていけるように、今後もプログラムをやりわり方を工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午前利用の児童で、給食に合わせて保育園や幼稚園に帰る場合に療育内容が少し少なくなってしまうことがある。	集団の活動として設定されている時間の途中に幼稚園や保育園に戻るようになってしまうので、どうしても活動時間が短くなってしまう。それに伴い、休憩時間や遊びの時間もゆったりととれなくなってしまう時がある。	個別の時間、集団の時間それぞれ要素を凝縮し、短い時間でも充実した活動を行っていけるようプログラムを工夫していく。また、心身のゆとりも確保できるよう活動全体を見直していく。
2	施設の問題で、トイレが1か所しかないために活動の切り替わりの時間に混みがちになってしまう。	トイレが1か所にしかないので活動の切り替わりの時間にはどうしても行列ができてしまう。	自由遊びの時間にさりげなくトイレに誘導し、遊び時間も確保しながら混雑を回避する工夫を行っている。特に帰る準備の前の自由遊びの時間には、自分からトイレに行っておくという行動をとることができる場面も見られている。
3			